



学校だより



令和5年 6月30日
7月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> Tel.042(481)7636

ふれあい月間を過ぎても…。

副校長 山崎 清香

5月30日～6月9日までの間、あいさつ運動を行いました。地域やPTAのたくさんの方々に支えられ、校門には、子ども達の元気な声が響いていました。ご協力に感謝申し上げます。

さて、今日1日、静岡県内の小学校で87歳の男性が卒業証書を受け取りました。

この方は、小学校6年生のとき、ハンセン病と分かり卒業を待たずに強制退学させられました。罹患判明後、登校すると、先生から汚いもののよう竹の棒で背中を押され、足蹴りにされて廊下に放り出されたそうです。「二度と校門をくぐるな。」と、先生に吐き捨てられ、こうべを垂れて帰路に着いたのが小学校の最後の記憶だそうです。

(6月1日付け 東京新聞より)

ハンセン病は、1907年、国の「らい予防法」の隔離政策などにより、当時は、怖い伝染病であるという考えを引き起こしました。後に、感染力が弱くすでに治療法も確立されましたが、先の話の方も、当時、不当な扱いを受け、辛い思いをした一人です。それでもこの方は、「ハンセン病に限らず、誤った認識で偏見をもたれたり、差別を受けたりしている人がいる。それを実際に経験した人

が語る方が、説得力があるのではないか。」と差別撤廃の啓発活動を続けています。このような方が認められ、75年の時を経て、卒業証書を受け取ったというニュースには、安心させられると共に、何か自分にできることはないかと考えさせられます。

「差別はよくない。してはいけない。」本当にその通りです。でも、日常生活の中で、「女の人は家事や育児をすべきだ。」「男の子は黒か青のランドセルを背負うべきだ。」などという思い込みが生じています。集団やグループをひとまとめに考え、固定的にレッテルを貼ってしまうことは、差別や偏見につながります。また、家庭内での日頃の何気ない家族の対話が、子どもの人生に大きな影響を与えられます。実際、差別意識や偏見は、子どものうちに、親など身近な人から聞かされてつくられる場合が多いそうです。

6月は「ふれあい月間」でした。子どもたちは、道徳などの学習の中で、互いのよさや違いを認め合うことの大切さや人権について学んでいます。私たち大人も、誤った知識を教えることなく相手を尊重した心をもつよう普段から心がけ、言葉や行動で示していきたいものです。

7月の生活目標 物を大切にしよう

物の豊かな社会に生きる子どもたち。物を大切にする心を育て、自分の持ち物や人の持ち物、学校の物を大切にする習慣を培っていきます。

「自分の持ち物には名前を書くこと」や「掃除用具や遊び用具などみんなで使うものは、正しく使い、後始末をしっかりとすること」を重点的に指導していきます。